

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：H19年度～H22年度

課題番号：19592489

研究課題名（和文） 小児がん発症期の家族に対するサポート体制の構築

研究課題名（英文）

研究代表者 野村佳代

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：

1. 研究計画の概要

小児がんの子どもの家族が必要とするサポートを明らかにする

2. 研究の進捗状況

*外来における小児がん患児の親を対象とした調査

現在までに外来治療か外来フォロー中の時期にある小児がん患児の親を対象としたレトロスペクティブ調査を実施した。

分析の結果、小児がん発症と診断され治療が開始されるまでには、3期に分類して、支援を検討する必要性が示された。近医受診によって小児がんを疑われた段階で、発症の衝撃を受けていることが明らかとなり、発症期のサポートを検討する際には、近医受診を開始時期とすることの必要性が示唆された。

また、近医での紹介から専門病院受診までは子どもや家族に対するサポートの空白期間となっていることが明らかとなり、空白期間におけるサポートの充実を検討するためにも、施設間の看護師同士の連携の必要性が示唆された。これらの分析結果について、学会発表への準備を進めている。

*コンピュータのホームページにおける情報の調査

コンピュータの普及に伴い、小児がんの子どもの家族は、コンピュータによって情報収集することが多くみられる。そのためコンピュータで得られる情報がどのようなものであるかについて調査した。

分析の結果、ホームページは大別すると医療者、支援団体、患者家族が発信するものであった。また、得られる情報は疾患に関するもの（病態生理や発現する症状、治療）、闘病生活の苦労体験、活用できる支援団体などについてであった。多くのホームページがリンクを張ることで、様々な情報を得られるように工夫されていることが明らかとなっている。今後はこの分析結果について、学会発表及び論文投稿を検討している。

*学校などの公共団体による支援状況の検討
養護教諭を主とした調査を検討しているが、調査の許可を得られた施設がないため、現在も調査の許可が得られるようにフィールド獲得に向けた活動を実施中である。

3. 現在までの達成度

小児がん経験者の家族への面接調査及びさらなる面接調査の依頼

4. 今後の研究の推進方策

家族への面接調査に加えて、サポートする側の支援体制についても調査する

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 件)

〔学会発表〕 (計 件)

〔図書〕 (計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

○取得状況 (計 件)

〔その他〕